

ました。大きい組がサッカーの試合をやった日に、畠へ行つて見たら、またお芋が出て来たの。お芋もいっぱい。泥だんごもいっぱいでした。幼稚園はこんな所です。泥んこになつても、洋服汚しても大丈夫。シャワーできれいになつて、着替えて帰ります。大きい組になると、もうあんまり汚しません、汚すと自分で洗います。げんきで仲良し、何でもできる子になりましょう。

(わかのかび幼稚園)

河野ゆり子

今年もまた、新入園児を迎える頃となりました。若い先生は若い先生なりの、私は私なりの、先輩の先生はその先生なりの緊張度で、意欲を燃やす新年度の始まりです。

「どんな子どもたちに会えるかしら」「どんな一年になるかしら」と考えながら、担任が決つた新入園児の写真を見たり、名前を覚えたり、それを書いたりすることは楽しいものです。お部屋の棚を使い易いように動かししたり、室内装飾を作つたりしながら、以前受持つた子どもたちのことを思い出すものです。「あの子ども、入園の時は小さくてかわいかった」「あの子は泣いてこずつたのだな」「入園式に着ていった私の白い服が気に入って、

あれを着ていないといやだとごねた子がいたっけ」「今年は、泣く子がいるかしら」

幼稚園は、幼児が始めて両親から離れ、一人で活動する場です。また最近では、子どもを始めて幼稚園に出す母親も少なくないようです。というのは、一家族が一―三人位の子どもなので、入園児中、長男・長女・一人っ子の割合が多いのです。入園前に、子どもが他家へ遊びに行くことも少ないし、公園等で遊ぶ際も、交通事故・誘拐など不安な事件が多いので親が付いて行く。当然、子どもと親が離れるという経験は少なかつたといえるでしょう。ですから幼稚園入園ともなると、親子共々緊張してしまわれるのでしょう。親から離れたがらない子、むしろ親が子どもから離れたい場合もみかけます。遊んでいる子どもに、「じゃお母さん帰りますよ。いいわね。本当にいいのね」と何回も念を押しながら帰る方、「いやだわうちの子、あっさりしているんだもの」と、すがつてくれた方が良いようなお母さんの気持ちなのでしょう。

幼児が泣く場合、入園式当日から泣く・しばらく日にちがたつてから泣くと二つのケースがあるようです。前の場合、お母さんから離れた経験の少ない子どもでしょう。先生がお母さん代りに

抱いたり、手をつないだりしているうちに、一日一日と慣れて、幼稚園がホームグラウンドになると活発に行動するようになりま
す。ところが後の場合、幼稚園入園で緊張しすぎていやになった
というが多く、一度登園拒否を起こすと、なかなか打ちとけて
はくれません。入園前にお母さんから「幼稚園へ行ったら、先生
の言うことをよく聞いて。しっかりするのよ」「先生は恐いんだ
から」と言われているようです。しばらくいわゆる優等生になっ
ているのですが、疲れて「もういや」と言うことになるのです
ね。「ほく幼稚園嫌いだ。行きたくない」と言って、毎朝どこか
へしがみつつか、頭が痛いと言って休もうとします。昨年いた子
ですが、欠席させてみると鼻歌を歌っていると、お母さんが嘆い
ていらっしやいました。「先生が家へ来てくれるといいんだけど」
と言うかと思うと、幼稚園へ引き止めれば「先生のほか、嫌い」
と手をはねのけたり、足を蹴飛ばしたり。その子も、今ではグル
ープのリーダー格です。幼稚園に慣れてくると、子どもらしい発
言がみられるようになります。

昨年のクラスですが、子どもたちの間に（泣くと雨が降る）と
いうシンクスが生まれました。雨の多い頃、「ほらほら、あなた
が泣いたから、空も泣いちゃった」と話しかけていたら、泣きや

んだ途端雨もやんだことがあったのです。それから、子どもたち
が言い始めました。泣いている子がいると、二、三人かけ寄って
「だめ、雨が降るでしょう。早く泣くのをやめて」。すると泣いて
いる子も「あそうか」と慌てて涙をふく光景がみられました。

「先生、先生なんですから」「先生のおっしゃることはよく守り
ますよ」とお母さんが言われます。子どもたちにとつて先生は、
一番関心のある人です。先生をとてもよく見ていて「先生って大
変なんだね」「あの先生、器量がいいね」。またある時、「先生っ
て偉いんだ」と言う討論がありました。

「先生は偉いんだ」

「え、一番偉いのはお父さんだよ」

「日本で一番偉いのは、天皇陛下だよ」

「ちがうよ。神様だって言ってたよ」

「ほかだ、先生が一番偉いに決まってるじゃないか」

あそうかと納得したようですね。またクラス対抗の喧嘩
をやります。

A組「なんだ、B組はちびばっか」

B組「そんなことないぞ」

A組「じゃうちの方が美人だぞ」

B組しばらく無言

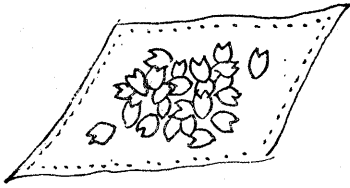
「うちの先生は力が強いんだから、A組なんかぶっとばしちゃうぞ」

おかしさを堪えて、こっそり聞いていました。静かにと注意すれば「先生だってしゃべっているじゃないか」と反論することもできるようになります。

子どもたちの成長に目をみはりながら、そこに何とも言えぬ楽しさがあります。

「今年は、どんな子どもがいるでしょう」

(大和郷幼稚園)



上村 菊朗

心と体の準備を忘れずに

春を迎え、自然は新しい息吹きで一杯です。入園の前に、お子さんたちも希望と生気にみちあふれていることと思います。ただ、入園を手放しで喜んでいくわけにはいきません。

毎年のことですが、新しい集団生活に適応できにくいお子さんがあります。早速、病気にかかって休むお子さん、思いがけない怪我をするお子さんも少なくありません。このようなつまづきの機会は、今までの家庭生活と、新しい集団生活のあいだの落差(違い)が大きいほど多いものです。今からでも遅くありませんから、少しでもこの落差を小さくする努力をしておきたいと思えます。この意味で、入園前に必要な心と体の準備をいくつかあげてみましょう。

年齢相応の生活習慣を身につけて

園では集団として、一定のまとまった行動が要求されます。

その第一は規則的な登園で、このため、今から、早寝、早起きの生活習慣をぜひ確立しておいて下さい。登園前の日課には時間